



きじむんの どう〜ちゅいむにい〜 文庫紹介編

第11回 琉球大学附属図書館所蔵の漢籍

キーワード：大濱皓 漢籍 琉球版

はいさーい&はいたーい！ きじむんやいびーん。皆さん風邪引かないように気をつけてね〜。
さて今回は、琉球大学附属図書館が所蔵する漢籍資料を紹介するよ！

・漢籍（かんせき）とは

漢籍とは、「中国人が中国文によって著作・編集・注釈・翻訳などをおこなった書物」のことを指しています。その中でも、辛亥革命（1911年）以前、清朝までに書かれた書物のことを「旧学書」、それ以降に書かれたものを「新学書」とし、主に旧学書を漢籍として扱います。内容が中国人による中国文のものであれば、出版地は問わないため、中国以外で出版されたものは出版地によって「朝鮮本」「和刻本」と分類されます。

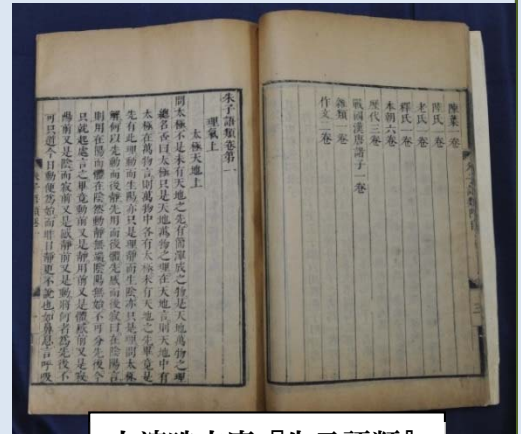
・大濱皓文庫について

大濱皓（おおはま あきら：1904～1987）は1904年に現在の沖縄県石垣市登野城で生まれました。登野城尋常小学校、那覇尋常高等小学校、沖縄県立第二中学校、国学院大学高等師範部を経て九州帝国大学、

東京帝国大学大学院にて学んだあと、台北帝国大学教授として赴任しました。戦後は名古屋大学にて教鞭をとり、定年退官後の1971年から4年間は琉球大学教養部教授として東洋思想、倫理学の講義を担当しました。

専門は中国哲学で、老子、荘子の哲学、思想の研究が中心でした。大濱の研究の特徴としては、伝統的な中国哲学研究にとどまらず、日本・中国における古典解釈のほかに、ヨーロッパにおける中国古典研究への言及、ヨーロッパ哲学との比較を行ったことが挙げられます。

大濱の死後、1988年3月に、彼の旧蔵資料約2600冊が琉球大学附属図書館に寄贈されました。そのなかには、ヨーロッパ哲学に関する書籍や「老子」のドイツ語への翻訳本等がふくまれています。最も注目されるのは、唐本・和刻本の秩入刊本で、内容も「老子」「荘子」や宋学関係と大濱の研究を象徴するものとなっています。



大濱皓文庫『朱子語類』

・琉球版の漢籍について

琉球大学附属図書館では唐本、和刻本、朝鮮本の漢籍の他に、琉球版の漢籍も所蔵しています。琉球版漢籍とは、①「琉球で版木を彫って印刷された木版本」、②「琉球人の注文によって琉球以外で版木が彫られ、琉球で印刷された木版本」、を指しています。当館が所蔵している琉球版漢籍には『大学』『論語集註』『小学』等があります。中でも、琉球版『論語集註』は戦前に沖縄の和漢籍を調査した武藤長平の旧蔵のものと考えられており、大変貴重な資料です。



琉球版『論語集註』

琉球人がどのような書物で学問に励んだのか、もっと知りたい人は参考文献をチェックしてね！（CT）

参考文献：富島壯英「近世琉球の出版文化 -琉球版本を中心に-」（『琉球の歴史と文化 -山本弘文博士還暦記念論集-』本邦書籍, 1985年）、高津孝『博物学と書物の東アジア：薩摩・琉球と海域交流』（榕樹書林, 2010年）、平成23年度琉球大学附属図書館貴重書展「文献資料にみる八重山・琉球」展示パンフレット（琉球大学附属図書館, 2011年）、平成24年度琉球大学附属図書館貴重書展「文献資料にみる琉球・沖縄 IN うるま市」展示パンフレット（琉球大学附属図書館, 2012年）

琉球大学附属図書館 沖縄資料担当 平成29年2月1日発行